

『まいこばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第5号(2008年12月12日)

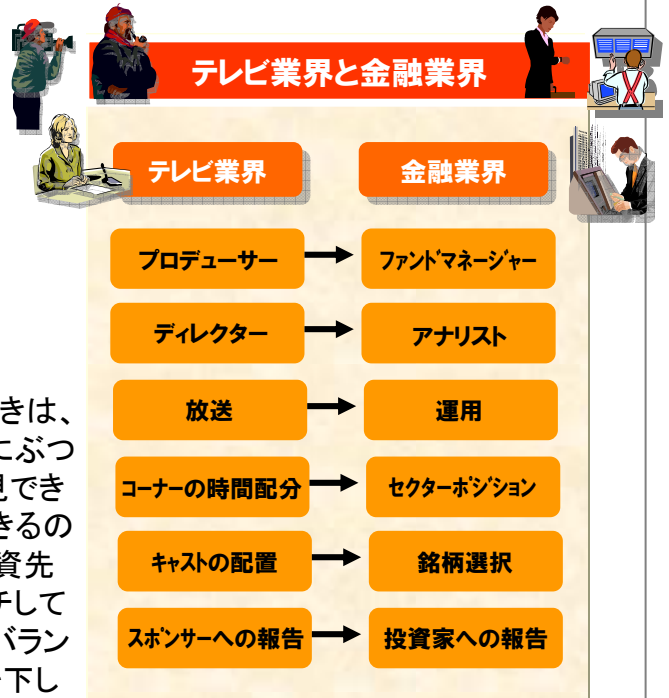
「ファンドマネージャーってどんな仕事？」

こんにちは。私は海外のお客様の運用を担当しているファンドマネージャーです。前号『アナリストの一日』に続き、今回は運用を担当しているファンドマネージャーの仕事についてお話します。まず本題に入る前によくある質問ですが、アナリストもファンドマネージャーも共に調査を行っていますが、違いは何なのでしょう？

一番の違いは、ファンドマネージャーは、**最終投資判断者であることと運用成績に対して責任がある**ということです。TV局で例えると、アナリストは担当コーナーのディレクター(担当者)、ファンドマネージャーはプロデューサー(番組全体の制作責任者)のイメージです。アナリストは総じて担当セクターが決まっていますが、ファンドマネージャーには**全セクターを見て統括するバランス感覚**が求められます。

スパークスのファンドマネージャーは、運用はもちろん、投資メッセージをわかりやすい言葉で世界に発信する役割が求められています。そして、それをパッケージ化してパワフルに営業展開するのがマーケティング部隊です。ファンドマネージャーは彼らと協力して、パフォーマンスについて、何がどう理由で良かったのか悪かったのかを顧客に理解していただく説明義務があるのです。

またアナリストと投資に対する意見が異なるときは、上下関係に関わらず、お互いの意見を徹底的にぶつけ合います。そこから見えなかったリスクが発見できたり、より自信を持って投資したりすることができるのです。ファンドマネージャーは、絶えず新しい投資先企業を見つけるために、継続して企業をウォッチしています。最終的には全体的なポートフォリオのバランスやリスクに配慮しながら、自らが信じる判断を下します。



※上記はイメージ図です。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート



今、私がファンドマネージャーとして日本企業を調査する中で持っている投資仮説は、日本の上場企業の多くが「生みの苦しみ」に直面しているのではないかとことです。「生みの苦しみ」とは、企業が事業戦略に沿って正しいことをしていても、その成果が現れるにはタイムラグがあり、もう少し辛抱を要するという事です。こうしたタイムラグがあるからこそ、ボトムアップ・リサーチを通じて、逐次状況を見極めることが重要なのです。

例えば、

「**現在苦しんでいる要因が一時的なものか？**」「**成果は株価に反映されているのか？**」「**本質的な企業の強みは失われていないか？**」などの事項を確認するのです。

生みの苦しみの一例を挙げれば、買収に伴う一時的なコスト増があります。最近の世界同時株安を機に、日本企業は国内外で積極的に買収や出資を進めています。買収がうまくいけば事業拡大、売上増、また利益率向上にもつながります。でも、一時的にはのれん代の償却や買収に伴う金利負担などのコスト増が先行、足元の利益を圧迫することもあります。

さて、現在日本の多くの上場企業がPBR1倍以下で取引されています。これは今後赤字が継続する可能性が株価に反映されているからだと思われませんが、圧倒的な「技術力」「ブランド力」「コスト競争力」を持ち合わせた世界を代表する日本企業はたくさんあります。しかし、それらの企業の業績が長期に赤字に陥ったり、他国の同業他社よりも不当に割安な株価水準で取引されていたりするのは、ファンドマネージャーとして大変違和感を感じます。

日本企業は、この厳しい環境の中、まさに「生みの苦しみ」に耐え、近い将来、目に見える成果を挙げるであろうことを強く感じています。



各ファンドマネージャーの投資仮説を共有し話し合う機会があります。アナリストや営業部隊も出席します。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。